

第3回岩倉市子ども行動計画策定委員会 議事録

日 時 平成24年9月4日(火)午後2時から
場 所 岩倉市役所 大会議室
出 席 者 委員10名、事務局6名

議 事 (1)子どもの権利について
(2)意見交換

配布資料 第3回岩倉市子ども行動計画策定委員会 次第

資料1 第2回岩倉市子ども行動計画策定委員会議事録

資料2 子どもの権利についての資料

参考資料1 子どもの権利条約

参考資料2 参画のはしごについて

参考資料3 「高校生による高校生のための場づくり(仮称)I-Spot」第2回開催報告

1 はじめに(開会)

2 議事

(1)子どもの権利について(要約)

伊藤副委員長より、子どもの権利について、具体的事例を交えてレクチャーいただいた。

<子どもの遊びと体験の場の事例から>

- ・子ども些細な怪我やトラブルを児童館の職員の責任として意見する保護者が出てきているが、天白プレーパークでは「ケガと弁当は自分持ち」と看板に記載されておりそれぞれの責任で楽しく遊んでいる。
- ・日本版ミニミュンヘンの先駆けである佐倉市「ミニさくら」では10年間継続する中で子どもから大人へ注文(見守る、指図しないなど)ができるようにまでなった。にこにこシティいわくらでも参考になる部分があるのでは。
- ・名古屋市で実施したユースクエア(名古屋市青少年交流プラザ)に関する中高生ワークショップでは、中高生が予約を取りやすくして欲しい、広報ではなく中高生の身近な情報誌やアプリで情報を流して欲しいといった意見が出された。
- ・子どもたちが欲しいと思う居場所を上手にユースワーカーが引き出せるとよい。

<子どもの権利への意識調査や高校生の場づくりから見えるもの>

- ・平成20年に実施した子どもの権利への意識調査では、子どもと大人で意見の相違がみられる。
- ・高校生の場づくりワークショップで「学校以外で普段いる場所」と「岩倉市にあるといい場所」を検討した際、「駅と高校をつなぐバスがほしい」「高校近くの田んぼに電灯がほしい」といったまちづくりの視点も同時に議論されていた点が面白い。また、意見結果から、学校の外でも友達と一緒にいるいは一人で勉強をしたがっているということがわかる。

<子どもたちの気持ちを尊重し意見を活かすために>

- ・大人が指導・教育しなくてはならないという脅迫観念や、子どもに権利を与えるとわがままになるという誤解といった阻害要因をどう解消していくかが課題。
- ・その方法として、「自らを表現しながら何かを獲得する」力を育てる、また、教育に「市民を育てる」という目的を入れると変化するとされている。
- ・ヨーロッパではシチズンシップ教育というものが学校教育に導入されており、学校運営に子どもを関わらせている。
- ・子どもたちに意欲はあるが参加の仕組みがない。現在、「子ども会議」や東北で始まっている「こどもまちづくりクラブ」などでは、様々なスタイルで子どもたちが参加していく仕組みをつくり始めている。
- ・子どもたちと接していて感じたことだが、子どもは大人と話をしたがっている。
- ・ユースワーカーといわれる児童館職員などが子どもたちの意見を聞いてあげられるといい。子どもたちの意見を通訳する橋渡し役としてユースワーカーが必要。
- ・ロジャー・ハートの参画のはしごの1段から3段目は参画に見えるが非参画の状態を表す。4段目以降を目指して、順番にはしごを登るように子どもたちと一緒に考えていけるといい。

(2) 意見交換 (要約)

- ・子どもがどういう方向に育ってほしいか、市としての方向のもとで計画を進めていっていただきたい。
- ・児童館では時間が短いため大人が考えたことで遊んでもらうことになってしまうが、その段階が大切なのではないか。
- ・子どもの意見を聞く場と、大人にも子どもの意見を聞く態勢が必要。
- ・曾野小学校には曾野小カーニバルがあり、南部中学校には南中フェスティバルがあるが、子どもたちがクラス単位で決められた範囲内でイベントを企画し楽しんでおり、中学に上がるとさらに主体的に進めている。学校の中ではあるが、子どもたちが今何をやりたがっているかはわかる。
- ・南部中学校では歌・花・ボランティアに力を入れており、特にボランティアでは地域の大人の方に触れる機会も多い。生徒会活動は子どもが主体であり、先生は見守る姿勢でアドバイスをするなどサポートする程度なので時間はかかるが、子どもの意見を聞きながら一緒に進めている。
- ・小学生と一緒に過ごす中で高校生も子どもから学ぶことがある。体験することは大事なことで、特に幅広い年齢の人との関わりの中で体験を多くさせたい。普段、高校生は勉強で忙しいため、我々教員がコーディネートをする。学校単位での参加は難しいため、部活動やクラス、グループの単位で様々な企画やイベントに参加していくことになる。
- ・岩倉総合高等学校の生徒から就職希望がある。高校生に来てもらい紙芝居をしてもらったり、プールの手伝いをしてもらったりといった交流はあり、お互いに刺激があってよいと思う。幼稚園の中では、年長児童が売って年少児童が買うといったお店屋さんごっこを行っている。
- ・ポイントとして、子どもたちと話し合う場を設けていくこと、ユースワーカーを配置していくことを上げていただいた。ただ大人と子どもがおしゃべりする場を作っていけば、その中

から何かが見つけられるのではないかという気がしている。本市の場合、ユースワーカーを新たに配置しなくても児童館職員がいることは強み。若い職員が多く、普段から児童館機能をどう高めていか話し合ってもらっているので、この方々に担っていただければという希望が持てる。

- ・ユースワーカーは、子どもと大人の間という立場を貫ける人、権利的に弱い立場に軸足を置ける人であることが重要。また、子どもの気持ちを代弁できる力が必要。
- ・岩倉市内で子どもの社会参画を促す具体的な場所や機会がつかれるといい。
- ・児童館では「にこにこシティいわくら」の実行委員会が2週間に1回開かれており、子どもたちが主体的に話し合い、子どもたちから意見が出る場となっている。小学生はまとめるのに時間はかかるが、回数を増やすことできちんとまとまっていく。
- ・小中学校の9年間の積み上げでイベントを作っていくことは岩倉市ならではの取り組みで、非常に素晴らしい。こうした縦のつながりをできるだけつくっていくことが重要。
- ・子どもの意見を聞く時の大人の姿勢が大切。大人が黙っているとどんどん意見がでてくる。大人は遠巻きに支えるのがよい。
- ・高校生ワークショップで出ていた駅と高校をつなぐバスについては、実際に運行するためにはどういった課題がありどうクリアしていくべきかなど、高校生たちにまちづくりの提案を求めるのも面白い。

3 その他

「高校生による高校生のための場づくり I-Spot」ワークショップについて

- ・今回議論されたことも踏まえて進めていただけるといい。
- ・今回のワークショップでは居場所を求めている生徒が参加しているわけではないが、今回をきっかけにして、今後は居場所のない生徒が参加できるようになっていくといい。
- ・高校生がプログラムをすることで、高校生の居場所づくりという位置づけになる。

その他

- ・次回は11月頃の開催を予定している。開催日時は日が近づいたら改めて調整させていただきたい。